

# アトリエ通信

号数  
第4号

発行日  
聊 63 年 5月20日

発行場所  
釧教大絵画研究室

## 雑 感

今年も、うっとおしい霧の季節がやってきました。霧笛の音を聞きながら、久しぶりにこの「雑感」を書き始めるとします。

今年卒業した3名の諸君も、あらたな環境にもう慣れたことと思います。美術科もデザインに二上先生を迎え、正規のスタッフが揃い、授業の方も軌道に乗りはじめたところです。まず、本年度の美術科の概観から……

### 入学者と卒業者

本年度の入試は釧路公立大の新設で、かけもち受験者が増えたせいもあってか、これまでになく受験生が増大し、体育館・会議室等の可能な場所を全て使ったのビッグ入試でした。くわえて、初めての推薦入学ということからも、入試業務自体がきわめて混乱した中で行われました。しかし、単に学力のみでなく、熱意のある学生を入学させたいという方針が実現できたことは喜ばしいことであると思います。

この結果が、「美術科入学者」にも大いに反映……することなく、本年度は実に、私の知る最低数の専攻生である、小学校課程ゼロ・中学校課程4名のみという、無残かつ世紀末的結果になってしまいました。

昨・一昨年状況から危機感をいだいた在校生が、今年は「新入室生勧誘ポスター」の掲示、シルク刷りの「勧誘チラシ」の配付と美術科の特性をフル動員して大量得票に結びけようと、なりふり構わず意欲的に取り組んだ結果が、このありさまでしたので、中心になって活動した餅田君や2年生にはソウトウノショックだったようです。しかし来年度もこれにめげることなく、より画期的な方法を用いて勧誘に奮起してもらいたいと思います。

そのような理由で、今年美術科の総学生数は24名となりました（昨年は30名）。内訳は、絵5・デ6・彫1・工3・教4。1年4休学1。

さて、年度当初恒例の「卒業記念品」の紹介に移りたいと思います……しかし、ドコモそれらしき物が無いのですが、私の目が悪くなったのでしょうか？

最初から「今年は無しだ！」と明言してくれれば（あるいは、お茶濁しにでもその辺の時計や、自分の写真パネルでも置いていけば）それなりに納得もできるのですが、今年の3名は、かすかなりとも期待感を残したまま去って行ってしまいました。

新歓コンパの際には宗森君から、初任給のおすそわけとして、日本酒が一升届けられ、

在校生の絶賛を浴びたのですが、あれが卒業記念品の全てなのでしょうか。今からでも遅くありません。4年間存在したあかしを送って下さい。

卒業生に関して言えば、卒業が危ぶまれていたデザインの某成田君は周囲の熱い期待を裏切り、諸手段を講じて見事に単位をかき集め、嵐のごとくに学窓を巣立っていきました。いまはめでたく臨教として教壇に立っているとのこと。これで日本の教育界もにぎやかになったことでしょう。

### 学生の近況について

近ごろの学生は大変リッチらしく、自家用車を所有する学生が増えてきました。免許の取得率も相当高くなり、アトリエ内で車や運転に関する話題の出ない日はありません。中にはアルバイトのために車を購入したと言いながら、その実は車を維持するためにアルバイトをしているような、本末転倒の状況すら生まれているようにも思います。自転車やビーチサンダルを唯一の交通手段としていたかつてとは、生活のレベルが格段に違ってきています。

しかし「学生の本分とは何か」を考えると、最近の学生のセツナ的な安易な思考自体に、疑問と危ぐを感じざるをえません。遙かなる自己の未来に夢とロマンを託し、今を耐え自分を鍛える……。そんな価値感もはや昔のものであるのかも知れないが。

### 私の近況について

この5月末に私の2人めのこどもが生まれる予定です。村山先生のところは8月だそう

です。ひとり目が生まれてからこの方、何んやかやと日常の家庭生活に追われ続け、どうにも「落ち着いて仕事が出来ないナ…」「落ち着かないのは、今の家庭生活との関係だ」と不満に思いつつ今に至ってしまいました。こどもの世話、家族サービスに費やすエネルギーはばかになりませんし、学校に残って制作する日が少し続けばウチハ母子家庭ダなどと不平を言われるし、かといって居場所もない程狭い借家などと、今でさえまなならぬ家庭生活からの拘束が、今後はさらにいっそう大きくなるわけです。

自分が頭に描いている理想的な生活との大きなズレの中で、「落ち着いて仕事ができる状況がいつかやってくるはずだ」と、これまではいつも自分自身を慰め納得させてきました。しかし、最近になってこの「落ち着いて……はずだ」と考えることは、じつは甘い幻想でしかなく「そんな快適な状況は将来も決してやっては来ない」ということを悟りました。

自分のやりたいことを行う時間は、日常の諸般のさまざまな障壁を、何とかやりくりすることで生みだした時間の中にしかなく、現在の不満に満ちた現実も、あえて正面から全面的に受け入れる肯定的な姿勢の中にのみ解決の手掛かりがあることを。

だいたい、常に周囲に不平・不満をぶちまけている人にロクな者がいたためしがない。自己の置かれた状況という歯車の中では、多少ガタガタ動き回ったところでたかが知れている。穏やかであっても、ゆっくりとじっくりと休むことなく歩き続けることのみが、唯一の効果的な生き方であることを明確に思い始めている。

'88.05.13

\*\*\* 63年度 絵画研究室展望 \*\*\*

今年度の絵画研究室は新たに「龍」の君を迎え、総勢五名という以前に比べると  
 こじんまりとした研究室となりました。去年の様に「龍」や、  
 「サンダー」の音等の騒音もなく、少し静かな雰囲気ですが、  
 皆それぞれに静かに燃えているようです。室長 藤井

間山 正樹 (2年) アトリエ一年目の今年は、今までの様にただ漠然と創作するのでは  
 なく芸術意識をもって表現したい。

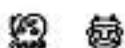


まゆげ

芸術の本質や、構造というものにはもちろん色々な立場があると思う。  
 例えば自然の生命や実在の表現であったり、人間の生命や存在の表出、  
 直感的真実の表現など。しかし、実際の芸術活動は、これらの全てがそ  
 の要素として相関的に働くものであると思う。だから、絵画だけに固執  
 することなく、建築や音楽、文芸など諸芸術にも目を向け、その中から  
 自己の新しい美の理念を感じ取りたいと思います。

藤井 つかさ (3年) 今年の抱負 「自分自身の表現を発見しよう。」

伊藤 恵理 (4年) “ついに” というべきか “やっと” というべきか4年生になっ  
 てしまった私です。三年間以上大学にいるというのに授業で描いた作品を入  
 れても、自分の作品数があまりに少ないのに今更ながら反省しているこの  
 頃です。特に昨年から作品主題の行き詰まりや腕の未熟さゆえか制作がま  
 ったくと言っていいほど進まず時間を無駄に費やしてしまったようです。  
 今年は、「あとがない」という思いから四月からは気合をいれてアトリエ  
 通いをしています。とにかく、デッサンでも何でもしようという一念から  
 です。まだまだエンジンフル回転とは言えませんが、そうしているうちに  
 私自身やっと動き出したかなという状態です。



白骨死体に肉付け

欲張りな性格の為、つい幾つものものに目を奪われていつもこれといっ  
 てものにならなかったので、今年こそ絞って自分にあった朝の時間を  
 利用して制作を進行させていきたいと思っています。

松久 充生 (四年) 釧路もやっと暖かい季節がやって来ました。休日の午前中など海を見ながら柔らかい光に包まれている時など幸せな感じがします。そしてなんと無しに髪の間を風が通り抜ける微睡みに満足しています。



心の生活をする松

宗森さん、篠塚さん、河村さん卒業お目出とうございます。三人がいなくなったアトリエは120ホンから、70ホンにレベルダウンです。(70ホンは伊藤さんです。)

今年新たに間山君が入室し、中塚君が休学しました。僕も休学してアルバイトでもしようかと考える今日この頃です。さて、今年の僕は、四年間の締め括りとして今まで感じてきたもの、培ってきたものをしぼりこんでいきたいと思います。(ちなみに僕のテーマは混乱の中の静寂です。)それには今の自分の限界を知ることが大切だと思っています。しかし、そんなことよりも、何よりも、僕ははたして卒業後制作を続けて行けるサイドの人間か、それともアトリエ通信を読むことに満足するサイドの人間かを自分なりに見極めなければならないと思っています。



高くそをほじる新井

今のところ70%は、制作を続けていけないと思います。セネカ曰く「結果のでない仕事はするな。」今年の制作(詰まり、時間の使い方と生活リズムの改善)を大切にこなして100%制作を続けていけると思える自分になろうと考えています。

大橋 拓 (4年) 私の最近の油は、何を描いても混沌とした黒い絵になり新井先生にも「君は何か悩み事でもあるのかね?」と言われ私自身も精神に異常をきたしていると思うのです。



生活に疲れた大橋

油をうんヶ月離れてみたもののもう卒作が始まってしまいます。関係のない話ですがアトリエの免許保有率夏に100%となるかも知れません。4年目全体では今75%です。

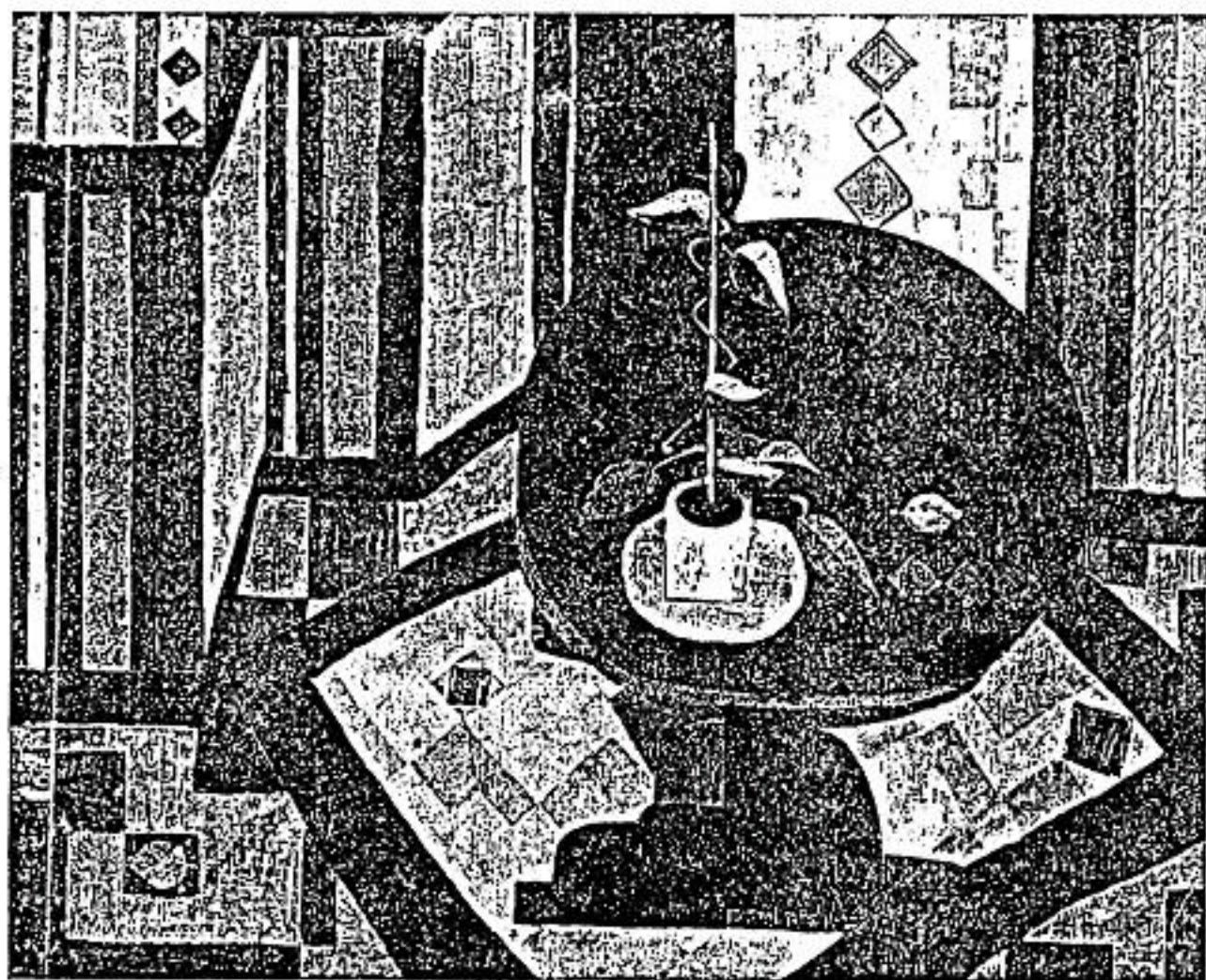
アトリエは5名となりましたがとても活気のある・活気溢れる・れない研究室になりました。[美研を弱体化させてしまってすいません。] (教採もちからをいれなければ...) この様に情け無くなった私も、明後日復活するでしょう。次号の結果報告が私はこわい。

アトリエ生五人のうち四人までが窓側でこじんまりと制作している今日このごろ。前にもまして他の研究室の通路化してきています。毎年シャイなアトリエ生ゆえしかたのない事かも知れません

## 卒業制作紹介

卒業後ン年間を経て、自分が「卒業制作」としてどのような作品を描いたのかも忘れてしまっている卒業生もいることでしょう。そん

なオールド・ボーイ&ガールの皆さんに、本年度のフレッシュな「卒制」をおとどけします。



河村絵理子

「静物」 F.100

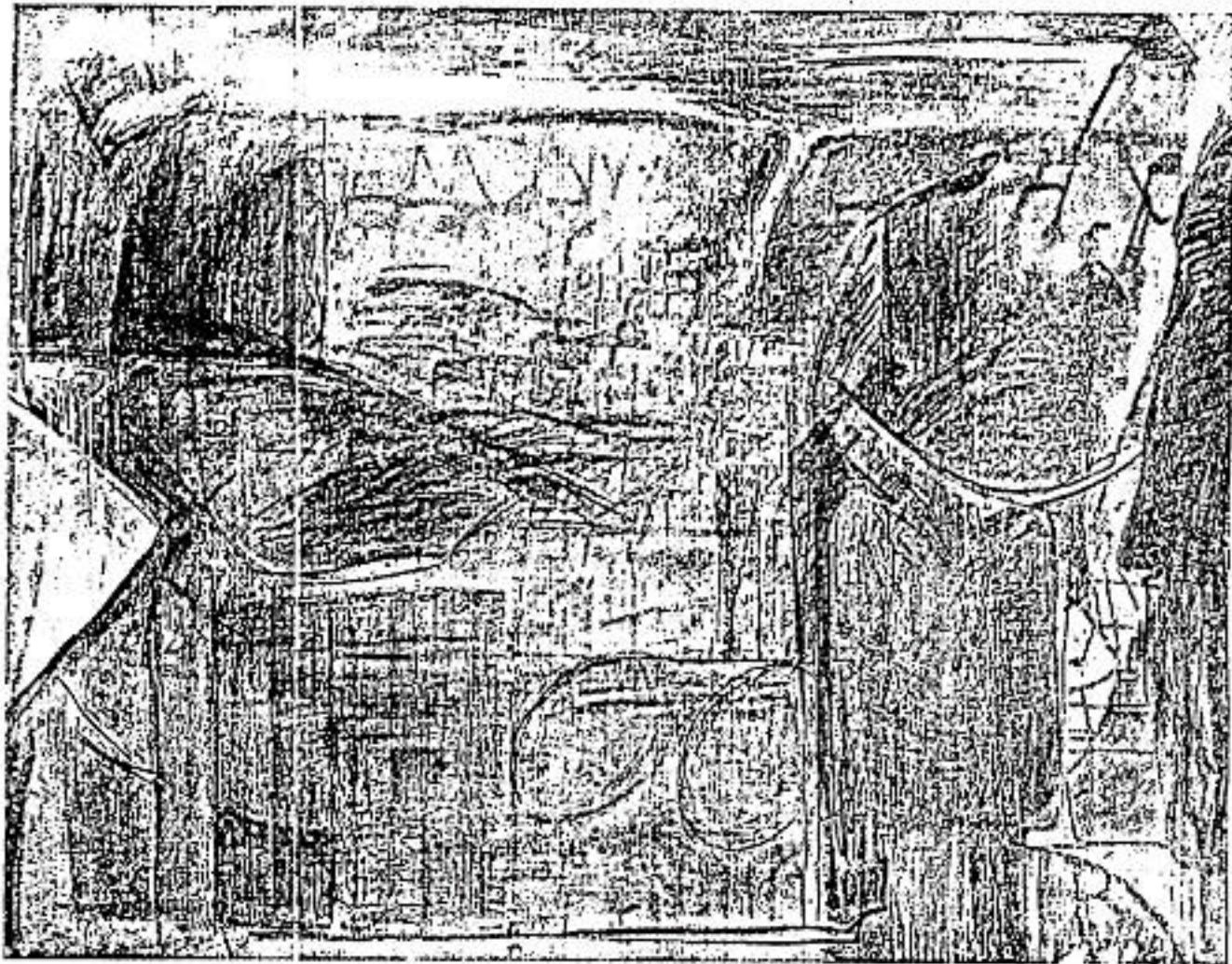
彼女は入学早々期、福井先生に「10年に一人の逸材」と言わしめた人物である。しかしその時期が彼女の人生のピークであったのか、福井先生の判断ミスであるのか、平「凡」たる作品に終わってしまった。

「描きたいモノが無い」という悲しい状態を4年間ズット続けてきて、1月に入ってから大分眼の色が変わり、この作品を仕上げたわけであるが、時すでに遅く、次なる展開に

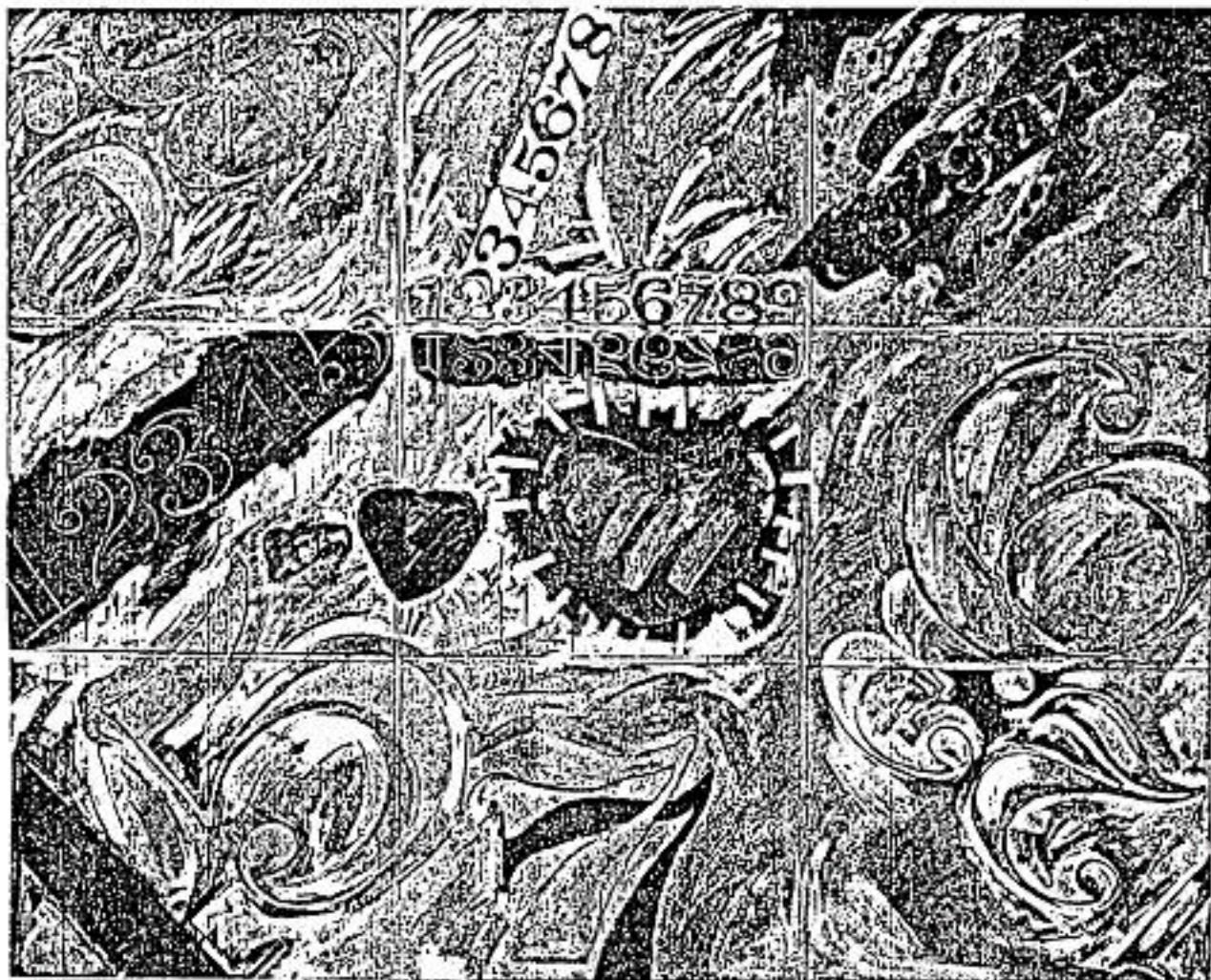
までは至ることが出来なかった。

標準以上の描写能力を備えていても、表現への執着心がないことには、大学の美術科に適應することは出来ない。描くこととはいかなることか。そうした自分自身への問いかけが欠如した中で描かれたこの作品には、もの寂しい人生の無情感が漂っている。

愛される社会人そして、幸せな家庭生活に恵まれることを望む。



篠塚智子  
「不確かな白」 F.100



宗森研介  
「数字」 254x200 CM

## 篠塚 智子

2年時後半からめきめきと描写力をつけ、4年にはいってからは半具象の世界にとびこみ、その混沌のなかで描かれた作品がこれである。材料的にも油絵というよりも、アクリル、木炭といった軽い傾向を好むようになり、ドローイングに近い表現である。したがって今のところは、センスのみで見せる絵であるが、材料の扱いかたがこなれてくれば、相当の作品に発展する可能性を秘めていると思う。卒制開始前の数ヶ月間に多少のモタツキがあったことが残念であった。今後の一層の活躍を期待している。

## 宗森 研介

入学時、教官不在のため日本史を専攻する夢をはかなくも破られ、どういうわけか美術に入ってきた人物であった。

河村さんとは逆に、描写力の欠如が彼のチャームポイントであった。そんな彼が卒業時にこのような大胆な表現ができるとは誰が想像しえたであろうか。

みずえや美術手帳を読みあさり、現代美術を識ることによって、描写力に代わり得るものを見いだした結果、それ以上のものを獲得しえた感がある。

不屈の精神で表現に執着してきた彼の4年間に拍手したい。

### 情報 コーナー (62/7~63/5)

- 8月 秋山君来釧（友人の結婚式に、ついでに斜里岳に登っていく）
- 1月初 渡辺君年始に釧路に向かう途中事故ル。
- 12 教職員美術展（釧路巡回展）で阿部さん入選、安藤君特選
- 2月10 追いコン（福祉会館）
- 25 アトリエ追いコン（アリーナでスケート→ボーリング→つぼ八）
- 29~3/6 卒制展（丹青）
- 3月 5 川守田君来釧、愛車のジープで
- 6 入試、中学校美術志願者28名受験者22名  
（合格者5名、入学者4名＝出身地 青森・福岡・山形・阿寒）

### 本年度卒業生の行方

赤松	(デ)	未定 (教職の意思なし)
小山田	(彫)	地元山形で臨教
河村	(絵)	東京海上釧路支店
西村	(彫)	千葉柏市松葉第2小勤務
川口	(デ)	未定
篠塚	(絵)	千葉県中学校に勤務
成田	(デ)	増毛の信砂小学校で臨教
早川	(工)	未定
宗森	(絵)	地元岡山の小学校で臨教

### 過年度卒業生情報

57卒	中山 (松隈)	3月に出産とのこと
58卒	阿部 (絵)	厚床小学校に転勤
59卒	高田 (絵)	道中学校に合格
60卒	佐久間 (彫)	道小学校B採用
61卒	和田 (デ)	置戸中学校勤務
	鎌田 (美)	清里の中学校に勤務

【受信者住所録 一覧 (63,5現在)】

新井 義史                      ㊦ 0 8 5                      釧路市鶴ヶ岱 1-6-6                      ☎ 0154-42-5701

卒年度	(旧姓)		住 所
56	* 神 史明	㊦ 0 8 0	帯広市南町南 8 線西 26 番地 77 サンコーポ 412
	坂下 麻子 (高橋)	㊦ 0 2 8-56	岩手県伊郡岩泉町門字西雷峠 4 4 の 2 5
57	小林 広勝	㊦ 0 4 6	余市郡余市町富沢町 7-2
	中山 恵子 (松隈)	㊦ 0 8 6-11	中標津町 東 2 南 6
58	内山 博之	㊦ 7 4 2-21	山口県大島郡大島町東三蒲 7 2 9-1
	阿部 智美	㊦ 0 8 6	根室市厚床 2-226
59	秋山 希嘉	㊦ 8 4 7	佐賀県唐津市大名小路 5-1
	* 山中 哲也	㊦ 0 8 5	釧路市愛国 39 の 230 岡坂マンション 1F3号
	* 高田 健二	㊦	< 不明 >
60	* 川守田 広章	㊦	旭川市旭町 2 条 16 丁目 教員住宅
	安永 秀子	㊦ 7 9 3	愛媛県西条市神拝甲 234 の 4
61	* 渡辺 弘樹	㊦ 0 9 2	網走郡美幌町元町 21 の 13
	* 菅谷 蒼紫子	㊦ 0 8 5	釧路市武佐 1 の 8 の 132
62	* 河村 絵理子	㊦ 0 8 5	釧路市桜ヶ岡 7-17-10
	* 篠塚 智子	㊦ 2 8 7	千葉県佐原市佐原イ・2210-1 (実家)
	* 宗森 研介	㊦ 7 0 8	岡山県津山市林田 558-1

( \* 印は、前回 (61.5) 住所録と変更あり )

編集後記

発行が遅れに遅れ、ほぼ一年ぶりのおたよりとなってしまいました。第四号をお送りします。フレッシュな企画を！といきごんでみたものの、あまり新ネタの無い企画にとどまってしまいました。今回の「絵画研究室展望」は、4年の大橋君の導入した最新機種のワープロにて打ってもらいました。次回は全部打ってくれると助かるのですが……。

新住所録を作りました。わずか数年で多くの変更があるものだと思われました。高田君の行方をご存じの方はお知らせください。

アトリエ通信も創刊以来2年を経ました。各自の生活環境や思考にもいろいろな変化があることと推察します。そこで皆さんにお願いですが、「卒業生からの単言」第二弾を載せたいと考えます。同封の葉書に、気軽に一筆啓上してお送りください。返信は、本号到着1週間以内をお願いします。(長い期限を設けても結局一緒だと思いますから) それを中心にして第5号を発行したいと思います。発行は7月下旬を予定しています。また、第6 or 7号では卒業生の「近作紹介」と銘打ちまして、卒業後の制作作品を写真にて紹介したいと思います。大作でなくとも、版画やカットのようなものでも(詩・紀行文等でも) かまいません。いまから心がけておいてもらえたらと思います。それでは皆さんからの、せつなくも楽しいお便りをお待ちしています。

新井記